
シンポジウム 6

看護学生の成長発達過程におけるストレスとコーピング

●シンポジウムの趣旨

患者の命を守り生活を支える看護師は、日々病気と治療への不安や恐怖が高まっている患者の看護に最前線であたっている。患者の不安にさらされている看護師には、大きなストレスがのしかかっているが、看護師たちは、周囲のサポートも受けながら、個々でそれに対処しつつ、患者に寄り添っている。

看護学生もまた、学校生活、とりわけ看護学実習において、さまざまなストレスに向き合っているが、それはやがて看護師としての高いコーピング能力の獲得と看護師としての成長につながっていく。

本シンポジウムでは、まず、看護教員である富坂氏から看護教育における臨地実習を中心としたカリキュラムについて紹介頂き、今井氏には、カリキュラムのなかで、看護学生に生じがちなストレスについて、看護教員の立場から述べて頂く。続いて、看護系大学卒業間もない岡田氏から、学生時代の実習におけるストレスとコーピング、およびその経験が卒後にどう生かされているかについて語って頂く。最後に、安部氏から看護系大学における学生サポートについて、具体例を挙げながら述べて頂く。

各シンポジストの発言を受け、テーマである看護学生の成長発達過程におけるストレスとコーピング（仮）について理解した上で、現在の看護学生のストレス/コーピングにおけるサポート上の課題を明らかにする。さらに、今後どのような指導上の解決策があるのかについて、看護学生の卒業後の、人として看護師としての成長に向けたサポートの視点から討論する。